

## 「認知症の方と家族を地域で支えるため」

平成27年12月18日の公開研修会は、鴻池荘訪問リハビリテーション作業療法士の倉賀野さんを講師に、「認知症の方と家族を地域で支えるため」というテーマで開催されました。

10月から、医療・介護の専門職をはじめとした地域のサービス事業所や民生委員の方々と共に、学びを深めてきた「認知症」ですが、今回は、「作業療法士の視点で考える認知症介護の支援」について伝えて頂きました。

はじめに、倉賀野さんから、「認知症介護において起こる問題や対応策、また家族の関わり方も千差万別である」と前々回・前回の研修のポイントの振り返りがあり、そのポイントを踏まえた上で、「作業療法士は、生活を多面的に捉え、作業を通じて評価を行い、そこから具体的な援助方法を提案していきます。」というお話しから講義が始まりました。

まず、作業療法士の視点から、認知症の進行に応じて症状、低下する能力と残存能力も異なることを踏まえ、段階ごとに適した活動や関わり方、注意すべきポイントについて説明がありました。ここでは、私たち支援する側が、何気にしている言葉かけで、認知症の方がどのように感じられるかを振り返る機会となり、認知症の方の自尊心を傷つけない関わりや、認知症の経過を正しく理解することで、その人に適した活動につなげる支援が行えることをあらためて学ぶことができました。

また、倉賀野さんは、「デイサービスなどの集団生活の場においても個別性が重要で、一つの活動を集団で行う場合は、スタッフによる工夫や頑張りが期待されます」と、介護の現場に関わる参加者の方々に投げかけられました。

後半では、家族支援について、①家族が本人をよりよく理解できるような説明、②個別性を重視した関わり方の提案、③相談しやすい機会の提供や関係作りなどが挙げられ、ご家族の不安や介護負担の軽減といった支援を行うことで、在宅生活の継続につなげることが出来ると話され、10月の看護師からのお話、11月の医師からのお話し、そして今回も同様家族支援の大切さを学ぶことができました。

